

平成25年度 富山県民生涯学習カレッジ砺波地区センター運営会議 議事概要

1 日 時 平成26年2月12日(水) 13:30~15:00

2 場 所 富山県民生涯学習カレッジ砺波地区センター 第1学習室

3 出席者 運営委員

池田 真一(株式会社ロンウッド代表取締役社長)

上坂 洋子(公募委員 南砺市太美山公民館)

大谷 朝子(元小矢部市立蟹谷小学校長)

奥野 達夫(南砺市立福光美術館長)

川原 久俊(津沢地区自治振興会長)

越村 巧(雷鳥会砺波支部長)

田悟 敏子(富山県「食の匠」)

飛田 久子(となみ野高校評議員)

中川美也子(小矢部市ボランティア連絡協議会会長)

事務局

富山県教育委員会 広瀬社会教育主事

県民カレッジ本部 荒井学長、

県民カレッジ砺波地区センター

石野所長、丹保副所長、斉藤となみ野高校事務長、大浦社会教育主事

4 会議次第等

(1) 開会の挨拶

県民カレッジ砺波地区センター 石野所長

県教委生涯学習・文化財室 広瀬社会教育主事

(2) 参加者自己紹介

(3) 報告

① 県民カレッジ砺波地区センター事業概要について

砺波地区センター関係の講座やその様子、生涯学習団体の関係の地区交流会、雷鳥会砺波支部の活動等、となみキャンパスフェスティバルでの受講者の活動についてパワーポイントを使って説明。

② 平成25年度事業報告

○配布資料をもとに説明

○事務局コメント

・今年度の共学講座の修了率が高かった(100パーセントの講座がかなり増えた)

・共学講座の社会人の感想の中に、高校生徒の真面目な取り組みや生徒との共同活動を評価するコメントが複数あった

- ・ふるさと発見講座は「地域」をテーマに講座を企画して好評だった
- ・今年度は地区センターの取り組みが、新聞・雑誌等で取材を受けた
- ・加越線パネル展示会等の地域発掘事業に取り組んだ

③ 平成26年度事業案について

- ・ふるさと発見 教養・実践コース 「砺波の食文化」「身近な花々と向き合っ」の2講座を閉じる。削減分の補充として、新規事業を入れる予定である。

(4) 協議「生涯学習の活性化と地域」(意見、感想等)

- ・県民カレッジの地区センターは地域に密着してコミュニティーセンターとしての機能をはたしている。
- ・新幹線の開業は、となみ野の魅力を考えるチャンスである。それには県民カレッジが意外に貢献する。
- ・日本は豊かな国であり、その中でも砺波地区は恵まれた場所である。メディアに出ると興味を持つ人も多い。新幹線の開業によって東京と結びついてさらに飛躍できる。
- ・移住体験等の際に自信を持って紹介できることを見つけていくことで、地元の理解にもつなげていきたい。
- ・リピーターを増やすためには、自分たちの住んでいるふるさとを自信を持って紹介できることが大切になる。ふるさとをいろいろな面から知っていこうということでは、県民カレッジは一役担える。
- ・小矢部市ではアウトレットを計画している。どういうところに人を引き付ける魅力があるか考え、2回3回と来てもらえるようにしていきたい。
- ・小矢部市はアウトレットのほかNHKの大河ドラマで義仲・巴の誘致運動などいろいろ工夫している。となみ野にはいいものがいっぱいある。自分たちの地域を愛し何かの時にお連れしたり紹介したりできるようにもっと勉強したい。
- ・いろいろな人が来られるようになる。富山県は、おいしいものを食べて、いい景色を見て、あたたかい人にふれることができる。もっと、地元の人が地元のことを知らないとおもてなしできない。地元のよさを思い出させるのが県民カレッジである。
- ・散居村や棟方志功を活用したり、美術館のバックヤードや美術品の保存の仕方の説明などこれまでやっていないことを取り入れていきたい。
- ・高志の国文学館と県民カレッジとはどういう関係にあるのか。
- ・最近、マスコットのマナビーの影が薄くなっている。ゆるキャラブームもありもう少し活用したらよいのではないか。

(5) 閉会の挨拶

県民カレッジ本部	荒井学長
県民カレッジ砺波地区センター	丹保副所長